

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	町田市医師会における喀痰吸引研修
演者名	五十子桂祐 1) 川村益彦、小泉明人、栄山雪路、吉田賢史 2) 小野沢滋 3)
所属	1) 町田病院 2) 町田市医師会 3) 北里大学病院 トータルサポートセンター

目的

現在の喀痰吸引研修には、1号・2号・3号研修がある。今回、3号研修に着目し、東京都・町田市の各行政機関及び、近隣の大学病院とも連携し、町田市医師会が主体となって、より多くの患者に対し、介護者が、喀痰吸引を出来るような在宅医療の構築を試みた。

実践内容

市内の各事業所に所属する介護者を対象に、喀痰吸引の3号研修を試みた。

研修対象者の選定は、喀痰吸引の対象となる患者を、すでに介護している介護者を10名

対象となる患者を、今後介護する予定である介護者を10名とし、計20名(19名)での研修を行った。

実践効果

当初は、現状の介護に加え、あらゆる側面からの危険度が増し、なおかつ介護の負担が増大するような行為に対し、応募自体が定数を割れるのではないかと、との意見もきかれた。しかしながら、介護者からの応募は、倍率が約4.5倍となり、介護者からの関心は高かった。また、研修内容に関しても概ね好評であった。

考察

現在までに、各訪問看護ステーションなどが、独自に開催をしてきた経緯がある。今回は、東京都及び町田市の各行政機関と連携し、近隣の大学病院との連携もしたうえ、町田市医師会が主体となり、講義や実習をおこなった。医師会が主体となったことで講義や実習に対する介護者の関心が高くなり、介護者における介護の自主性が高まった。応募の高さからも、今後も継続して研修を行う必要性がある。